

後谷湿地再生検討分科会 第4回会議 概要

日時：2024 年 8 月 1 日（木）13:00～15:00

参加者：11 人 傍聴者なし

開催方法：ウェブ会議システム（ZOOM）

次第

1. あいさつ
2. 議事
 - （1） 現地視察についての報告および資料の説明
 - （2） 再生湿地の設計について
3. 次回以降の日程と内容の確認要点

資料

- ・ 第4回分科会次第
- ・ 第4回分科会参加者名簿
- ・ 湿地復元案（鉄道・運輸機構より）
- ・ 01_中池見作業イメージ全部
- ・ 02_全体工程表（中池見）修正
- ・ 03_川道付替[中池見諸設備工] 支柱線平面図
- ・ 04_20240711 分科会現地踏査用資料案_修正 2
- ・ 05_中池見_確認手一覧 0717 修正（キクザキイチゲ追記）

1. あいさつ

分科会会長より、第4回分科会の次第および議事について説明

2. 議事

（1） 現地視察についての報告および資料の説明

7月11日に行った現地視察について、事前に作成した確認事項チェックシートに従って確認を行ったことを報告。

再生湿地付近に自生するキクザキイチゲについて改めて情報共有を行ったほか、地権者から聞き取りを行った過去の法面について現状を確認し、かつてより緩やかな斜

面を作することを合意した。また、再生湿地内に建てられた電柱の支柱線の配置や水門付近の樹木の伐採などについて鉄道・運輸機構から説明を受けたことを報告した。その後、鉄道・運輸機構から再生工事中の柵の設置や土砂撤去の日程、土砂の仮置き場など現地視察当日に説明された内容について資料を交えて改めて報告された。これに加えて、土砂撤去予定地の4か所で行ったボーリング調査についても説明があり、かつての田面と考えられる層（旧耕作土）まで土砂を撤去することが説明された。

（２） 再生湿地の設計について

鉄道・運輸機構から湿地復元の4つの案について検討した結果が示された。

案1「階段状の水田」と案2「溜池とその周辺に形成される湿地」については施工が難しいが、案3「氾濫原型湿地」、案4「湧水湿地」については施工が可能であることが示され、今後の詳細設計や施工期間を考慮し、8月中に方針を決定することが求められた。

以下、分科会会員から鉄道・運輸機構への質疑応答

Q. 「氾濫原型湿地」について、簡易的な畦畔というのは何を示しているのか

A. 前回も示したように、土を盛って作った畔を示している。

Q. 案4については、もともと全面を湧水湿地として施工することは求めている。案3について、水路を蛇行させ、途中に水をあふれさせるような構造を設置することが必要。案2について、溜池は機構が想定されているようなものではなく、浅い池とする。案1について、もともとは全面を水田とする計画だった。地元にもどのように説明するか。

A. それぞれの案について、全面に施工することを想定していた。それぞれの案を組み合わせることで湿地を設計することを想定していなかった。ハイブリッド案であれば実施可能になる。

Q. 湿地に水をためるのにあぜが必要ではないか。また、溜池への導水についてどのように想定しているか

A. 水をためるのにあぜが必要なのは同意。水田様湿地については周辺に畔を施工する。溜池への導水については後谷の小川から取水を行う。湿地に導水するための高さの測定や詳細設計についてはこれから行う。

Q. 観察者向けの木道整備ができないか。

A. 現在の計画では想定していない。

質疑応答を受け、それぞれの案を組み合わせモザイク状の湿地をつくる方向で進めることを決定。次回分科会までに再生湿地の大まかな設計については鉄道・運輸機構から示されることになり、それについて次回検討を行うことで、8月中に方針を決定することとなった。

概要

7月11日の現地視察の報告と再生設置の設計について議論が行われた。現地視察では貴重な植物の保護や過去の法面の再生について確認が行われ、伐採作業の進捗状況が報告された。今後は測量作業が行われ、盛り土の撤去が進められる予定である。

次のステップ

- 鉄道運輸機構: 湿地再生の設計案（ハイブリッド型）を作成し、次回分科会までに事務局に提出する
- 分科会会長: 鉄道運輸機構から受け取った設計案を分科会メンバーに事前に共有する
- 分科会メンバー全員: 次回分科会までに鉄道運輸機構の設計案を確認し、意見を準備する
- 分科会会長: 8月中旬から下旬の次回分科会の日程調整を行う
- 敦賀市: 保全活用協議会の開催時期を検討し、分科会の進捗状況に合わせて決定する
- 鉄道運輸機構: 10月頃の現地視察の具体的な日程を分科会会長と調整する